

薬理パフォーマンス課題②

学習目標

- ・ 与薬に伴う危険性について理解し、安全管理(6R)に基づいた行動がとれる
- ・ 薬物の適切な計算ができる

事例	心不全で入院中の秋月うめさん(85歳)に利尿薬を与薬することになった。 処方箋を見ながら、点滴の準備・与薬・与薬後の観察までを実施しよう。
----	--

処方箋	患者氏名：秋月 うめ様、昭和13年1月2日生、女性 薬剤・用量：生理食塩水 100 ml・ラシックス 20mg 方法：1時間かけて点滴静脈内注射 時間：5月1日10時開始
-----	--

学習活動	評価規準	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準			学習の視点
				A	B	C	
与薬前に必要な学習をする	知識 ・ 理解	与薬の目的や効果について理解している	対話 RF RF ワーク 内容	心不全によって浮腫が現れるメカニズムや心機能の低下に伴う患者の苦痛について学び、利尿薬に期待される効果と患者の変化について理解している。	心不全の病態や現れる症状が分かり、利尿薬に期待される効果について理解している。	利尿薬の効果について調べている。	<ul style="list-style-type: none"> ・心不全 ・心機能低下 ・検査データ ・浮腫 ・体内動態 ・使用目的
与薬の準備を行う	思考 ・ 判断	投薬を安全に行っている	観察 対話 RF RF 手技	投薬による患者に及ぼす危険をふまえ、与薬の準備から投薬までを安全に行っている。	安全管理(6R)に基づいて、ミキシング・輸液ポンプへのセット・患者への投薬を行っている。	手順を確認しながら投薬を行っている	<p>★安全確認(6R)が一つでもできていない場合はCとする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミキシングの手順 ・適正な投与量の計算 ・輸液ポンプの使用法 ・過剰な確認をしていない
投薬中・後に必要な看護を学習する	表現 ・ 技能	投薬中・後の観察点について理解している	観察 対話 RF RF ワーク 内容	主作用や今後予測される有害作用、また危険性について、根拠にもとづいて学び、患者に必要な観察している。	薬剤使用に伴う、有害作用について理解している	一般的な観察点について理解している	<ul style="list-style-type: none"> ・薬物の警告、禁忌事項 ・有害作用の発生因子 ・有害作用の影響 ・薬剤の効果

テーマ	与薬に伴う危険性の理解と安全管理に基づいた行動の理解		
学年・人数			
場面設定	心不全で入院中の患者さんに利尿薬を与薬し、点滴中・後の観察を行う場面。		
時間配分	全体の時間 45分	シミュレーション時間	5分
		導入(ブリーフィング)時間	15分
		デブリーフィング時間	25分
学習目標	1. 投薬中・後の観察点について理解する。		
患者情報	<p>氏名： 秋月 うめ</p> <p>年齢： 85歳</p> <p>性別： 女性</p> <p>キーパーソン： 夫</p> <p>家族構成： 独居（近所に次男夫婦が住んでいる）</p> <p>診断： 心不全</p> <p>背景： 40歳代で子宮を全摘、70歳代で腰椎圧迫骨折</p> <p>その他の大きな疾患なし。80歳代から眩暈や息切れなどの訴えがみられ心不全と診断される。今回心不全の悪化に伴う呼吸苦も著明にあり入院となった。</p>		
シミュレーションの課題	医師の指示にて利尿剤を与薬することになった。投薬中・後の観察を行ってください。		
事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・心不全 ・心機能低下 ・検査データ ・浮腫 ・体内動態 ・使用目的 ・薬物の警告、禁忌事項 ・有害作用の発生因子 ・有害作用の影響 ・薬剤の効果 		